



尚 操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校

尚 操 会

〒682-0925

鳥取県倉吉市秋喜20

倉吉西高等学校内

0858(28)-1811

印刷 (有) 矢積印刷

0858(22)-5312

創立百周年・節目の入学式

～新たな一步を刻む～

▶ 新入生代表による宣誓

◀ Aホームから入場



▲ 緊張の中に凛々しい眼差しの新入生

花・水・木

創立百周年を記念する西高祭が終わりまし
た(四十七回目の西高祭でした)。今年の西
高祭を終えて感じたことは、生徒たちの限り
ない可能性でした。

生徒たちはこの西高祭を開催するにあたり、西高祭の運営体制の改善をはじめ、様々な事柄に昨年度から取りかかっています。いくつかの取組例を挙げますと、「やったことを正確に記録する(記録は分刻み)」、「次年度以降にも正確に継続されるシステムを作る、一常に組織・管理(システム)の改善点を考える」などがあります。これらの方針に則って活動内容を検討していったことで、各係の縦割り運営の壁が低くなると同時に、全体をより組織的に運営することが可能になりました。さらに、各委員会の委員長をS2生が担当するようにしました。S3生ではなく、S2生が一年早くリーダーとして活動することで、次年度最上級生になったときに、より活発に、より効率的に西高祭に取り組んでくれることを期待しての選出です。このように多くの活動を見直したことで、実行委員会のメンバーで活発に意見を交換し、少しでも良いものを作り上げようとする熱意をひしひしと感じることができました。

尚操会の皆様、来年度の西高祭にぜひご来場ください。間もなく五十回の節目を迎えようとしている西高祭ですが、時代の移り変わりとともに西高祭の本身は変わっても、生徒自身が知恵を絞って西高祭の成功という一つの目標に向かって活動することは不変であります。現在、実行委員会は「今回の西高祭を確実に再現できるマニュアル」を残そうとしています。来年、彼らは今年以上の企画力を発揮してくれるものと確信しています。

生活支援グループ長 福井 敬司



尚操会員皆様の お力の結集に感謝申し上げます

尚操会会長 川 田 良 雄

中部地区にお住まいの会員の皆様をはじめとして、県内東西部、そして県外の多くの会員の皆様、日ごろより尚操会ならびに倉吉西高に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、創立百周年記念事業へのご寄付をいただきましたことに對しまして、感謝申し上げます。

この『尚操』は、尚操会の唯一の広報紙であります。卒業生である尚操会会員同士はもちろんのこと、在校生、先生方とも紙面を通じて情報を共有し、交流をはかる目的で発行をしてみられました。今年の十一月には、かねてよりご案内のとおり、創立百周年記念式典等を挙行いたします。これまでに記念事業、式典、祝賀会、寄附金などについて、何度も会議を重ねてまいりましたところですが、特に寄附金につきましては、当初の予定どおり進めることができず、各支部長さんをはじめとして、各地区の世話人さん、一般会員さん、多くの皆様にご迷惑をおかけしました。見通しに甘さがあつたことと、それをまねいてしまった私自身の

力量不足を痛感しているところです。

そうはいっても、日一日と記念式典、祝賀会の期日が迫ってきています。会員の皆さん、地域の皆さんとともに創立百周年を祝いたいという気持ちは、いささかも揺らいではおりません。その前段として、八月十七日(日)の尚操会総会には多数のご出席をお待ちしております。

多くの方々から創立百周年記念事業、式典等に励ましのお言葉や、寄附金をいただき、改めまして感謝申し上げますとともに、会員皆様からのご期待の大きさを感じているところです。記念式典、記念事業は尚操会会員の皆様の記念であると同時に、在校生にも特別の思い出になるものです。倉吉西高のもとに尚操会会員と在校生が心を一つにあわせていきたいと思っております。一連の創立百周年記念事業によつて、今後ますます倉吉西高校が充実発展し、いつまでも倉女以来の伝統を引き継がれていくことを祈念いたします。



記念すべき創立百周年

校長 松 本 清 治

今年度は、本校にとって創立百周年となります。沿革を見ると明治四十一年に倉吉町立成徳尋常高等小学校内に町立倉吉女学校が付設され、生徒数七十八名でスタートしました。そして、大正三年に発展的に廃校とし、同時に倉吉町立倉吉実科高等女学校が設置され、女子中等教育がここにスタートしました。このときを本校の創立とし、六月十六日に開校式を厳粛に行い、以来この日を創立記念日と定めてまいりました。

その後も幾多の変遷があり、大正十一年には鳥取県立倉吉高等女学校と改称、戦後の教育改革では、昭和二十四年に倉吉第一高等学校及び倉吉実業高等学校と統合し鳥取県立倉吉高等学校となり、同校西校舎と呼ばれていました。そして、昭和二十八年四月の公立学校再編成により、男女共学の鳥取県立倉吉西高等学校が誕生し、今に至っています。

さて、節目となる時は大きな飛躍の時でもあると言われますが、本校も飛躍の年になると思います。部活動にお

いては、昨年と一昨年で全国優勝が、団体二、個人六、その他にも入賞がたくさんありました。そして、野球部の活躍など、県内で注目を集めるようになりました。学力や進路実績においても、確実に力を付け結果を出しています。これらの実績をさらに伸ばしていきます、生徒自身が自信を持ち、西高生であることに誇りが持てるようにしていきたいと考えています。また、本校の校訓「立志」の精神である「自ら志を立て、失敗や挫折を恐れず、その実現にむけて積極果敢に物事に取り組む」という考え方を全生徒が理解し、自分の十年後の姿を描きながら、進路実現に向けて努力しています。何かの機会がありましたら、是非、母校を訪れ、頑張っている生徒たちに激励の言葉をかけていただければと思います。

記念すべき創立百周年を新たな西高のスタートにしたいと思っております。今後とも本校の教育を理解いただき、ご支援ご協力をよろしく願います。



創立百周年記念式典へのご参加を

創立百周年記念事業 実行委員長 入江 誠
(西高二十六回卒)

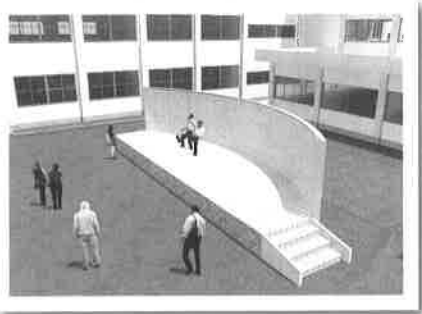
創立百周年記念式典まで、残すところ四カ月余りとなりまし

準備委員会の立ち上げからは、約二年の歳月を費やし一つ一つ積み上げてきたところ。特に、記念事業の中核となる「中庭整備」に係る募金活動の準備につきましては、鳥取県、県教委・倉吉税務署・広島国税局・国税庁など多くの関係機関のご理解とご協力を頂き今日を迎えたところです。

「アベノミクス効果」で、都市部を中心に景気動向も上昇傾向にあるとされており、地方ではなかなか波及効果を感じないのが、現状だと考えます。そのような状況下で、県外支部・地域支部の役員さんを中心に募金活動に取り組んで頂き衷心より感謝申し上げます。

また、今年もプレイベントの一環として、十月三日の金曜日

に開催される「ふるさとラリー」とタイアップをします。在校生と一緒に、老若男女問わず、秋の東郷湖畔を歩くイベントです。同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。詳細は西高ホームページをご確認下さい。最後に、十一月九日の記念式典には多くの同窓生の皆様、在校生と共に創立百周年をお祝いしたいと考えますので、よろしくお願いたします。



記念事業・屋外ステージイメージ図

クラス会だより

「ウイーンの森」の集い

記

▽とき 平成二十六年二月十一日
▽ところ 水明荘

正月に入る
と、毎年二月十一日、同窓会の案内状が届くのが待ち遠しい。東郷湖でとれた白魚料理を食べ、湖に泳ぐ親子の鳴を眺め、温泉に浸るのが最高の癒しです。一番



近い所に住んでおられる梨農家で働き者のNさんの乾杯で、今度元気で会えたことの感謝と、健康で来年も出席できるように約束しました。

「旧姓の方が早く出て来るなあ」と言いながら高校生に戻り「あんな遠いところから自転車で行き通ったなあ」と感心したり、「私は二年生から書道を選択したけど」と言うのと、「私は音楽コースだけ歌を歌ってやったので楽しかった。」また「大学に行きたかったが、兄弟

が多くて進学は諦めた。最近の生徒は大方の人が進学希望で、若い親は本当に大変だな。通学でも両親の送り迎え、八十過ぎのおばあさんが送られる家もあるとか、私達はいつまでも元気でいなければいけないね。」と話す。宴会の最後は「花は咲く」の斉唱と西高の校歌を歌い散会した。西高六回生 澤村 恭子

西高七回三年四組クラス会

記

▽とき 平成二十五年十月二十七日
▽ところ ホテル阪神

紅葉の美しい候、「倉吉西高三年四組クラス会」(昭和三十五年卒業生)に各方面より十八名集まり、秋晴れの大阪で開催いたしました。

十月二十七日(日)、市内観光と水都大阪クルージングを楽しみ、ホテル阪神にて宴会、宿泊。翌二十八日(月)は百年を迎えた通天閣に集まり、新世界で昼食、そして海遊館を廻り、次会の再会を誓い、楽しい二日間を無事に過ごしま



倉吉西高3年4組クラス会
H25.10.27(日) 大阪

した。西高七回生 矢田 敏子
西高十六回三年七組

記

▽とき 平成二十五年八月二十五日
▽ところ 山吹
西高十六回生 河本真理子



創立百周年記念学年会

記

▽とき 平成二十六年一月四日
▽ところ 倉吉シティホテル

先日
は楽し
いひと
ときを
過ごす
ことが
できま
した。
写真を
お送り
するの
が遅く



なりました。健康に気をつけて、また、お会いしましょう。次回は四年後を予定しています。

西高二十三回生前田 純一

西高二十四回学年会

記

▽とき 平成二十六年一月四日
▽ところ 倉吉シティホテル

七名の恩師をお迎えし、総勢五十七名の参加で、学年会を開催しました。

「あの頃の倉西高には、教育の原点があった。」という先生のお話しに、先生方の燃える情熱と、活気ある学校生活を思い出したり、「男女、学年関係なく仲が良かった。」というお話しには、涙ながらに先輩に説教



していただいた思い出や、仲間と支え合った思いやりあふれる三年間であったことを再確認しました。確かに、あの三年間は、愛と熱気あふれる先生方の言葉や表情、行動力に感化され、目標や夢を語らい、成長できた三年間だったと思います。

昭和四十九年、二学期をもって、余戸谷町の校舎に別れを告げ、一人一人椅子を持ち、アリの行進のようにして、まだ工事資材の残る秋喜新校舎に入りました。歴史と倉女以来の伝統の余戸谷町校舎と、それを受け継ぐ真新しい秋喜校舎の、二つの学校生活を体験できたことも幸せでした。

司会の言葉が聞こえない程盛り上がった一次会は、あつという間に終了し、記念写真を撮り、再会を約束して会を終了しました。先生に感謝、仲間感謝、西高に感謝。感謝、感謝の日でした。

西高二十四回生 福井 輔

あしがき

いよいよ百周年の節目を迎えます。節目を大切に、新たな最高のスタートを心ひとつにして切りしたいと思います。(事務局)

鳥取県立倉吉西高等学校 創立百周年記念式典

(倉吉未来中心 大ホール)

記念演奏	13:00～13:50	記念講演	15:15～16:45
記念式典	14:00～15:00	講師：宮本延春 (みやもとまさはる) 氏	演題：「オール」の落ちこぼれ、教師になる
休憩	15:00～15:15	祝賀会	17:15～19:15
			(小ホール、アトリウム)

講師プロフィール

1969年生まれ 愛知県半田市出身
小学生の頃から、体も小さく、「いじめ」の標的にされていた。
中学校に進み、最初にもらった通知表は、「オール1」。義務教育を終えた時の通知表も技術家庭・音楽が「2」で残りはずべて「1」だった。「九九」を全部言うことさえもできなかった。
中学校卒業後、大工の道に進むが、両親が相次いで亡くなる。思うところあり17歳で大工をやめる。その後、地元の建設会社に就職。

1992年 23歳の頃、1本のビデオ「アインシュタインの理論“光は波か、粒か”」との出会いから、物理学に興味を持ち、大学進学を決意する。夢への道は、小学校3年生のドリル・九九のマスターから始まった。

1993年 24歳の春、地元の高校(定時制)に合格。
1996年 名古屋大学理学部合格。
1996年 27歳で名古屋大学入学。大学と大学院で、宇宙物理学を専攻し、素粒子などの研究に没頭。
母校(高校)の教師になる。

2005年 テレビ朝日「スーパーモーニング」の“人生捨てたもんじゃない”のコーナーで放送され、反響を呼ぶ。
2007年 テレビ朝日の「徹子の部屋」に出演。
2007年 安倍内閣の教育再生会議委員に就任。
2007年 TBS「3年B組金八先生」のドラマの中で紹介され話題になる。
2010年 日本テレビ「天才じゃなくても夢をつかめる10の法則」で紹介される。

現在 執筆、講演活動でも活躍中。
【著書】『オール1の落ちこぼれ、教師になる』角川書店 ほか

平成26年度 尚操会総会案内

とき 平成26年8月17日(日)
ところ 倉吉シティホテル
総会 10時から **演奏会** 11時から
記念写真撮影／懇親会 12時から
会費 3,000円

演奏者紹介

佐々木まゆみ氏 (Soprano)

■プロフィール

倉吉市出身。倉吉西高等学校第46回卒業生。
昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業同大学音楽専攻科首席修了、修了時学長賞受賞。
鳥取オペラ新人公演「バ스티アンとバスティアンヌ」バスティアンヌ役、総合芸術文化祭オペラ「春香」でタイトルロールを好演。オペラ「イソップ物語」太陽役。オペラ「フィガロの結婚」ケルビーノ役。2011年新作オペラ「怒」3つ目の怒女役。第九ソリスト、ソロリサイタル開催。鳥取県クラシックアーティストオーディション優秀賞受賞。06年よりアザレアのまち音楽祭コンサート出演。様々なオペラやコンサートを中心に県内・外で精力的に演奏活動をしている。とっとり芸術宅配便講師。鳥取オペラ協会会員。

重道 博世氏 (Piano)

■プロフィール

倉吉市出身。倉吉西高等学校第53回卒業生。
2010年武蔵野音楽大学卒業、2012年同大学大学院修了。第16回カウベルピアノコンクール優秀賞。第26回アジア国際音楽コンサートオーディション銅賞。2013年アザレアのまち音楽祭出演。
後進の指導にあたる傍ら、県内外にて演奏活動を行っている。

創立百周年記念誌のご案内

平成27年3月発行
A4判 DVD付 定価5,000円(消費税、送料込み)
お問合せ先(発行元)
山本印刷株式会社 〒682-0901 倉吉市広栄町971-21
TEL 0858-47-0088 FAX 0858-47-0123